

# TNB58だより



平成 27 年 5 月号

新緑の季節となりました。5月のさわやかな風の中、子どもたちは元気に学校生活を楽しんでいますか。先生方は、一ヶ月が過ぎ、学級を順調に立ち上げる事ができましたか。少しずつ定着を図ってきた生活習慣もゴールデンウィークで元に戻ったということはありませんか。一喜一憂しながらも、子どもたちとしっかり向き合い、前進していけるよう頑張ってください。

さて、子どもたちは取り巻く社会環境の急激な変化の中で自分に自信をなくしており、いじめ・不登校・問題行動・学ぶ意欲の低下などが大きな社会的課題となっています。また、小学校では平成30年、中学校では平成31年から「特別の教科 道徳」が始まります。そのような中で「自分を価値ある存在であると感じ、自己と他者を尊重する気持ち」、すなわち「自尊感情」が「生きる力」にも含まれるものとして注目されています。その意味で「自尊感情」を育むためには何が大切かもう一度考えてみました。

## 自尊感情を育む学級づくり

参考文献  
高知県教育センター「研究紀要」

様々な調査結果から、日本の子どもの自尊感情は、「他国と比べて著しく低く、年々低下している。低下は小学校中学年から始まり、それ以後低下し続ける」と言われています。子どもの自尊感情を育むためには、「家族に温かく受け入れられているという思いを子どもがしっかりと持つこと」が重要ですが、保護者の不安も大きく、自信を持って子どもに接することが難しい家庭が増加しており、学校と保護者の連携は欠かすことができません。

子どもの自尊感情を育てるのは……「親の温かい声」「友だちの優しい声」「先生のはめる声」

親の自尊感情を育てるのは……「我が子の生き生きした声」「友だちの元気な声」「先生の理解の声」

先生の自尊感情を育てるのは……「その子の明るい声」「友だちの輝く声」「親の信頼の声」

### ○親の自尊感情を育てる「懇談会」

☆説教じみた話は控える

☆クラスの子の実態、中でも「いい話」をする … 自分の子が関係していたらなお嬉しい

☆お土産話を持ち帰ってもらう … お母さんに気持ちよく帰ってもらうこと

☆お笑いで入り感動で終わるのが最高 … 心温まる子どもの作文、詩、出来事は必ずメモを  
運動会や音楽会での陰での出来事。感動の秘話……

☆懇談会に参加されたお母さんには、一人ひとりにその子のいいところを伝える。

次回もその次も伝える。 → 懇談会に来るのが楽しみに



↓  
参加人数が増える

↓  
担任はクラスの全ての子のいいことを準備

↓  
担任はよりよく子どもを観察するように

↓  
**担任の子ども理解が驚くほど深くなる**

## ○自尊感情を育む「学級経営」において大切なこと

- ①先生が権威的に接するのではなく、人間味のある接し方をする。

自分の弱さや失敗談を子どもに語り、自分も完全な人間ではないが、この学級で一緒に過ごしたいという気持ちを表す。

- ②子どもの話を聴き、話に共感すること。

多忙かもしれないが、「ながら」ではなく、話している子どもと向き合っ、話を聴き、その話を自分の体験と重ねて子どもに返せるコミュニケーション

- ③「できない」ではなく、「できる」という肯定的な見方をする。

子どもに対する固定的な見方を廃して、どの子も伸びる存在であるという肯定的な見方を常にすること。子どもを多角的に見る。

- ④目指す学級像を語り、それがもたらす結果を子どもたちに伝えること。

学級経営におけるビジョンを明確にし、守ってほしいと考えているルールを明確に伝えること。それらが守られる学級はどんな学級で、それを目指すことが子どもたちにとってどんなメリットをもたらすかを、きちんと伝える。

- ⑤受容的態度で子どもと接すること。

どの子どももその子をありのままに受け入れ、その子の持つ様々な背景を理解していこうとする姿勢

- ⑥子ども同士の良好な人間関係づくりを進めること。

学級の中には、子どもの中で位置付けられる力関係が存在する場合が多い。それを固定化しないよう、先生の意図的な働きかけで子どもをつなげていこうとすること。



## ○自己効力感（自信度）、自己有用感を育むための5つのポイント

自尊感情は四つの柱で支えられていると言われています。そのうちの一つ「自己効力感」（自分は他人に対して何かしら”する”ことができる、”してあげる”ことができると感じる感情）を育むには、次のポイントをおさえてみましょう。

- ①目標や目的をもたせること…「身近な目標」「中くらいの目標」「遠い目標」を持ち、その目標を達成していると感じること
- ②「意味ある体験」により多くの人と繋ぐこと（ボランティア活動や地域活動）  
…自分の将来を相談する人(周りに、その子どもの話を聞いてくれる他者)数が増える
- ③子ども主体の授業と「できた」という達成感を持たせること  
…先生は、子どもたちへの支援と、問題や課題ができた時には、その行為を意味づけし、肯定的に評価すること
- ④子どもの行為へのフィードバックを行うこと  
…子どもは自分のやったことに対して、その意味や価値が分からないことがあるため、周りから言葉による評価をすることが大切



- ⑤成長のモデルを大人が示すこと…子どもたちは、身近なモデルの姿が肯定的あるいはあこがれとして映るようであれば、自分も「あのようにになりたい」と考え同一化していく。モデルは、家庭では親が、学校では先生がなる。